パートナー情報誌
香澄
かすみ
Kasumi

令和５年度環境学習フェスタ開催報告　1P
霞ヶ浦クリーン UP 活動報告・計画　2P
霞ヶ浦湖岸植物定点観察活動報告　3P
令和６年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」計画　4P
身近な水環境の全国一斉調査活動計画　5P
令和５年度後期図書活動報告・計画　5～6P
私の細道（48）金沢　6～8P
職員紹介他、編集後記　8P

パートナー情報誌　ＫＡＳＵＭＩ　第３８号（通巻７６号）　発行日　令和６年４月３０日

令和５年度環境学習フェスタ開催報告

令和６年２月 10 日の土曜日に、「令和５年度環境学習フェスタ」を開催いたしました。

イベント当日は、メインプログラム「環境学習成果発表会」や土浦市主催による「高校生霞ヶ浦ミーティング」が多目的ホールにて開催されたほか、館内では市民団体等による環境に関する体験・学習・展示等のブース出展、屋外では地元の飲食店によるケータリング出店等があり、全体で 1,500 名の方が来場されました。

環境学習成果発表会では、県内小中高校の児童・生徒（団体・個人 16 組）による日頃の環境学習や環境保全活動に係る発表が行われ、来場者の皆様にも環境への関心が高まる契機となったほか、児童・生徒同士や来場者間で盛んな質疑応答が繰り広げられ、大変有意義な発表会となりました。

市民団体等による 15 のブースが出展した館内では、多くの来場者で賑わい、楽しみながら環境について学んでいる姿を見ることができました。センターパートナーの皆様には、「六角返しと万華鏡工作を楽しもう！」のブース出展にご協力いただきましたこと深く感謝申し上げます。

また、ご当地キャラクターとして、近隣４市村より、つちまる（土浦市）、かすみがうにゃ（かすみがうら市）、なめりーミコット（行方市）、みほーす（美浦村）が登場し、来場者の皆様に楽しいひと時を提供しました。

今回の環境学習フェスタでは、上記のほか、屋外に飲食ケータリングカーも出展するなど、イベント全体として大盛況のうちに無事に幕を閉じることができました。

夏の霞ヶ浦 ECO フェスティバル、今回の環境学習フェスタと、コロナ禍を乗り越え、かつてのセンターの賑わいを取り戻しつつあることを実感できる１年間でした。

次年度もパートナーの皆様には、引き続きお力添えいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。（センター　圷）

「パートナー霞ヶ浦クリーンUP自主活動」令和５年度報告、令和６年度活動計画

❑令和５年度活動報告

我々ができる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに、パートナーやセンターのご協力のもと、霞ヶ浦湖岸（２.３km）のゴミ拾いを実施していますので、その活動結果を報告いたします。

令和 5 年度は新型コロナウイルスの収束に伴い、活動の制限がなくなってきました。そのため通常に近い活動ができるようになりました。

しかしベテラン中心のメンバー構成のため、昨年夏の猛暑の時期には、熱中症予防対策として 7･8 月の活動中止を決断せざるを得ませんでした。

また、6 月の大雨で、霞ヶ浦の水位が大幅に上昇しました。その際に多量のゴミが漂着して、いつもとは違う様子が見られました。ここに漂着したのは各所で捨てられたゴミの一部であり、その他の多くが霞ヶ浦を経由して海に流れていったと思うと、暗然とした気持ちになりました。水に流すわけにはいかないのですから。

今年度の回収したゴミは、分別後の袋数で数えると以前より少なく、まとめて捨てられたゴミの量は確実に少なくなっています。4 月と年末年始に多く出る大型ごみの投棄も、少なくなったと感じました。時流に後押しされての意識の高まりなのか、このままさらに減ってくれればよいのですが。

活動時には挨拶を心がけていますが、釣り人から「ゴミは持ち帰るからね。」と声をかけていただいたのは、とてもうれしい瞬間でした。

これからも多くの方が環境に関心を持っていただけるよう、活動を続けていきたいと思います。

令和５年度活動実績

・活動日：毎月１回、原則第３日曜日　年間８回活動できました。

4／23・5／21・6／18・~~7／16~~(中止)・~~8／20~~(中止)・9／10・10／22・~~11／12~~(中止)

・12／17・令和６年 ~~1／21~~(中止)・2／11・3／17

・時間：午前９時～11 時頃

・回収総量：４４袋（回収の内訳：可燃→３０袋 不燃→１４袋　今年度活動８回の合計。

昨年度は１０回の活動で計６５袋。）

・参加者延人員：２９人

❑令和６年度活動計画

令和６年度は、下記の日程での活動を計画しています。(原則第 3 日曜日ですが、一部の月は第 2・第 4 になります。)

・4／14・5／19・6／16・7／21・8／18・9／15・10／20・11／24・12／15・1／19・2／16・3／16

環境の維持改善のため、皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー 佐伯）

令和５（2023）年度後期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動報告

カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)･ヌマガヤツリ出現、タコノアシ(国県準)減少を確認。ナガエツルノゲイトウ(特外)の侵入･生育地拡大中。

月/日	ABEFGHIJKL 区**観察概況**　（ＩＢ･Ⅱ:絶滅危惧ＩＢ類･同Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物）
R5 10/11	オギ、セイタカヨシ(県準)が出穂しサクラタデやウナギツカミなどイヌタデ属の植物が開花した。**サヤヌカグサ**が穂を付け新たにハイヌメリグサが見つかった。G 区浅瀬でカンエンガヤツリ（国Ⅱ県準)とヌマガヤツリを観察した。特定外来生物ではオオバナミズキンバイの匍匐茎が伸長しアレチウリが実を付け、ナガエツルノゲイトウの新たな侵入地が見つかった。
11/8	**カントウヨメナ**が満開で全草赤いタコノアシ(国県準)が種子散布中だった。群生するミゾソバや点在するヤナギタデが花序を付け、イシミカワ、サデクサには実も見られた。スズメウリ、ゴキヅル、ツルマメに多数の実が付いた。赤い莢が裂開したタンキリマメやオグルマの花も見られた。Ｂ区法面で帰化種アレチニシキソウが見つかった。
12/6	果実散布中の枯れたヨシやオギ、セイタカアワダチソウの中にヒメジソやチガヤなどの草紅葉とハゼノキの紅葉が見られた。足元でクサヨシ、オヤブジラミ、ヤハズエンドウの新葉が伸び、ナズナ、ホトケノザ、オオイヌノフグリの花も見られた。クコ、サネカズラ、ヘクソカズラなどの実が熟した。堤脚水路に**アマゾントチカガミ**が侵入しているのを確認した。
R6 1/10	ヨシなどは果実散布終盤、ヒメガマやオギは倒れ始めた。落葉したヤナギ類などで冬芽が見られ、常緑木本やタガラシ･ヒガンバナなどの青々とした葉が目立った。新出となるフキにはまだ葉が残っていた。生育地拡大中の**ナガエツルノゲイトウ**(特外)は水際で茎を浮かべていた。オオバナミズキンバイ(特外)生育地で防除対策の掘削工事が進行中だった。
2/14	イヌコリヤナギやカワヤナギなどの冬芽が動き出した。セイタカヨシ(県準)の大部分は枯れたが分枝に緑色の葉が残る。オニグルミやゴンズイなどの落葉樹で特徴のある冬芽と葉痕を観察した。常緑樹の幼木が多種見られ、新出種のクチナシが見つかった。**カラスウリ**の塊根が見られ、オオバナミズキンバイ掘削地ではヨシとヒメガマの地下茎を見比べた。
3/13	低地でカワヤナギ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギの花が見られ、**ヤナギトラノオ**(県Ⅱ)の芽が伸び出していた。畦や法面でフラサバソウ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナなどの越年草が花を付け群生していた。特定外来生物のオオフサモはロゼット状の茎先を水面に広げた。水際でナガエツルノゲイトウの茎が広範囲に密集しているのが見られた。

10 月**サヤヌカグサ**(イネ科)多年草
節に細毛、小穂はイネに似るが熟しても緑

11 月**カントウヨメナ**(キク科)多年草
冠毛が短く関東以北の畦などに生育

12 月**アマゾントチカガミ**(トチカガミ科)多年草
中南米原産の生態系被害防止重点対策種

1 月**ナガエツルノゲイトウ**(ヒユ科)多年草
南米原産、栄養繁殖が極めて旺盛

2 月**カラスウリ**(ウリ科)蔓性多年草
雌雄異株、種子と塊根で繁殖

3 月**ヤナギトラノオ**(サクラソウ科)多年草
滋賀･福井以北に隔離分布する寒冷地植物

（霞ヶ浦湖岸植物同好会　パートナー　二階堂）

令和６（2024）年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」活動の計画

環境学習推進活動の一環として、センター主催の**「霞ヶ浦自然観察会(植物)」**に於ける補助活動及び**「いきもののにわ」**の整備・観察学習活動とパートナー自主企画活動の**「湖岸植物定点観察」**を行う。

霞ヶ浦自然観察会は霞ヶ浦とその流域の自然とともに生きる生き物に直接触れて楽しみ、霞ヶ浦に興味・関心を持ち理解と親愛を深めてもらう目的で実施される。

湖岸植物定点観察は自然再生地を含む湖岸(下図)で、環境の変化等が植物相に及ぼす影響を見るため原則毎月第2水曜日に実施する。水辺の代表的な種、絶滅危惧種等の希少種、特定外来生物等は年間を通して生育状態や生活史、分布状況や消長などを継続観察する。毎月、観察の概要と共にこれらの花や実、冬芽(葉痕)や展葉など、旬の植物写真に説明を付けて 2 階展示コーナーに掲示する。また、これまでの観察結果を活かして、ヤナギトラノオ、ノウルシ、ヌマアゼスゲ等希少種の保全活動をしたり、特定外来生物種の防除に役立てたりする。

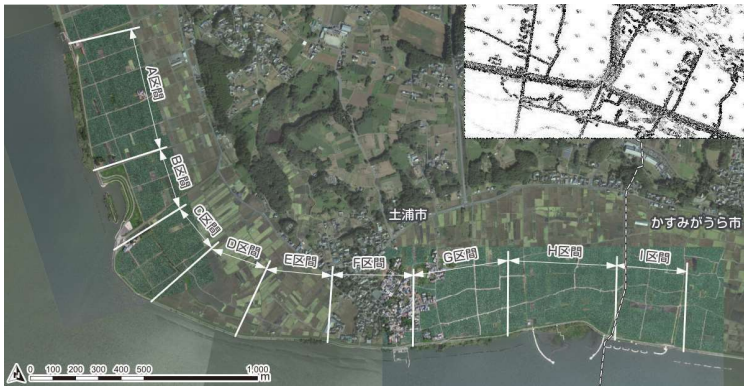
R5.9.16 第 6 回自然観察会「妙岐ノ鼻湿原と和田岬で霞ヶ浦の・・

ヤナギトラノオ(県Ⅱ)R5.5.10.H 区

各区の特徴と注目種等

写真：霞ヶ浦河川事務所
挿入地図：川尻川周辺

〔希少種・外来種等の略語表記〕
ⅠB,Ⅱ,準：絶滅危惧ⅠB 類,Ⅱ類,準絶滅危惧
特外：特定外来生物
生被防重：生態系被害防止重点対策種



A 区：再生地(H19～工事)
北小池オニナルコスゲ，南小池サジオモダカ(県準)，南池ミズヒマワリ(特外)弁天前改修低地・笹藪跡地(R2.3 施行)
サジオモダカ(県準)，ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)，カサスゲ

カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)
R5.10.11G 区浅瀬

オオバナミズキンバイ(特外)
R5.7.12H 区

B 区：(H25.3 引堤工事完了)(R3.3 月幅 3m低地盤上げ)(R5.R6.2 低地一斉草刈)セイタカヨシ(県準)，ショウブ，ハッカ，アレチウリ(特外)，アマゾントチカガミ(生被防重:堤脚水路 R5.11 初認)

HI区：(H27-29 再生事業)事業前からある種；ヤナギトラノオ(県Ⅱ)，ジョウロウスゲ(国Ⅱ県準)，ミクリ(国県準)，ノアズキ(県準)，セイタカヨシ(県準)，オニナルコスゲ，ドクゼリ，マツカサススキ，事業中～後に出現した種；アサザ(国準県Ⅱ)，カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準)，タコノアシ(国県準)，カワヂシャ(国県準)，ウスゲチョウジタデ(国県準)，フトイ，ヒロハノコウガイゼキショウ，サンショウモ(国Ⅱ県ⅠB)，ノニガナ(県準)，ミズヒマワリ(特外)，オオフサモ(特外)，オオバナミズキンバイ(特外:R5.12-生育地掘削,遮光実験地)，ナガエツルノゲイトウ(特外:生育地拡大)

E 区：(H29-30：樹木を含めた広範囲の皆伐)
ノウルシ(国県準)，セイタカヨシ(県準)，ヤワラスゲ，ハンゲショウ，イヌドクサ，アレチウリ(特外)，ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.8 初認 R5.7 盛土際)

G区：ノウルシ(国県準)，ヌマアゼスゲ(国Ⅱ県ⅠB:R1.6 初認 H31.1 浚渫土撒出)，マツモ(県準:R2.11 堤脚水路初認)，浅瀬カンエンガヤツリ(国Ⅱ県準:浅瀬多数 R5.9)，ナガエツルノゲイトウ(特外:水際 R5.8 初認)

J 区：(H15 整備ウェットランド消波堤)ナガエツルノゲイトウ(特外:R3.7 初認 R5 生育地拡大)

K 区：アサマスゲ(国準県ⅠB)，オグルマ，タンキリマメ(県Ⅱ)，ナガエツルノゲイトウ(特外:R5.6 水際初認 R4 法面西側伐採 R5 皆伐土砂撤去整地～12 月) アレチウリ(同：増加)

L 区：タンキリマメ(県Ⅱ)川尻川沿，オオフサモ(特外)堤脚水路

〔日程〕9:00(冬期 9:30)集合　　(保全活動: 10:00～11:30)
9:30～12:00 現地 12:15～昼食 12:45～13:00 新出種等確認
13:00～14:00 記録整理(写真名前付け・展示物選出)

「いきもののにわ」整備活動の予定

原則毎月第 4 水曜日　10:00～11:30 (集合　作業確認　作業・休憩　片付け)
作業内容：除草，間引き，移植，コンテナ・プランターの整理，名札整備等

湖岸植物定点観察の年間予定

活動年月日	原則第 2 水曜日
R6-4-10	9：00 集合
5-8	"
6-12	"
7-10	"
8-7	(例外第 1 水曜日) "
9-11(18)	"　(保全活動)
10-9	"
11-13	"
12-11	9：30 集合
R7-1-8	"
2-12(19)	"　(保全活動)
3-12 3-26 (庭整備終了後～)	9：00 集合 同好会打ち合わせ (R6 年度まとめ・新年度の活動計画)

(霞ヶ浦湖岸植物同好会　パートナー　二階堂)

第２１回身近な水環境の全国一斉調査活動計画

本活動は平成25年6月の「第10回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。第21回（令和6年）で連続12回の参加となります。第21回身近な水環境の全国一斉調査は昨年の台風 2 号の影響も考慮して、第 20 回と同じ下記 3 地点の継続調査で東京・国分寺市の全国水環境マップ実行委員会事務局へ参加申込みをしました。調査内容は下記のとおりです。パートナーの皆さん、是非参加して下さい。お待ちしております。

・調査日（予定日）：令和６年６月2日（日）

・調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによる COD 測定、透視度、電気伝導度を調査。この他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ、川の変化についての意見（今と昔）の実施。

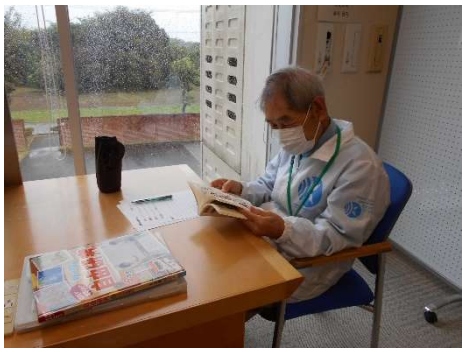
・調査地点：小野川（下根大橋）、清明川（清明橋）、巴川（にのはし）の3地点です。

調査風景　巴川（にのはし）R5.6.6　　小野川（下根大橋）R5.6.6　　（パートナー　浅野）

令和５（2023）年度後期図書活動報告及び令和６年度図書活動計画

1、文献資料室の図書紹介文の作成

活動日は原則毎月第２、第４金曜日です。令和５（2023）年度後期の紹介本は、新規購入図書（寄贈図書を含む）を中心に 36 冊でした。紹介本の内容は次号、香澄第 39 号（令和６年７月 31 日発行）に掲載致します。紹介本そのものはセンター２階交流サロンに「パートナーが選んだおすすめの本コーナー」が有りますので、どうぞご覧下さい。
参加パートナー（浅野、高石、大坪）



図書紹介活動

２、読み聞かせ活動

文献資料室所蔵の絵本、紙芝居等の中から自然保護や水質汚染、地球温暖化など環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動日は原則第４土曜日の午前 11 時～／午後 2 時～の２回です。令和 5（2023）年度後期は 10/28、11/25,12/23、令和 6 年 1/27、2/24、3/23 の６日間。午前、午後の計 12 回実演でした。参加者は大人 34 名、子ども 35 名の計 69 名でした。参加者にはパートナー手作りの「しおり」をプレゼントしています。また、参加者の増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れております。

令和 6 年度の活動計画は、活動日が８月と 12 月が第３（土）、11 月は第５(土)に変更以外は令和 5 年度と同じ内容です。

参加パートナー（浅野、江畑、小松、戸嶋、
森田、石井、大久保）

読み聞かせ活動

３、新聞スクラップの作成

[活動日]　毎月原則２回（第 2，4 週の金曜日）

[活動内容]　朝日、読売、茨城の 3 新聞を対象とし、下記テーマに基づいて記事をピックアップ、編集、ファイリングしています。

[テーマ]①霞ヶ浦流域における河川、湖沼などに関する情報に限定。

②生物多様性、地球温暖化など環境問題をテーマとした情報に限定。

令和 5 年（2023）年度後期は　計 11 日活動しました。

令和 6 年度から「新聞スクラップの作成活動」は無くなりました。

参加パートナー（内田、小神野、小野）

新聞スクラップ活動

（パートナー　浅野）

私の細道（その４８）　金沢

芭蕉らは元禄２年（1689）７月１５日（陽暦８月 29 日）、高岡を立ち、小矢部の埴生護国八幡宮を拝し、歌枕の「卯の花山」を見て、倶利伽羅が谷を越え、金沢へと入ってゆく。芭蕉も曾良も心身ともに疲れていた。酒田以降不快なことも多く、決して楽しい旅ではなかったようである。ただ、芭蕉は金沢には期待していた。芭蕉を待ちわびているはずの若き俳人小杉一笑に会うことであった。会ったことはないが、多くの撰集に掲載される実力があり、芭蕉との文のやり取りはあったらしいと、麻生磯次の「奥の細道購読」にある。しかし、金沢の宿に着いた時、一笑が前年の１２月に死去していることを知らされる。芭蕉が失望したであろうことは想像に難くないが、一笑の兄をはじめ、多くの俳人が芭蕉の下に次々集まり、翌日から俳席に招かれたり、指導を求められたり多忙の日々が続いた。芭蕉はすっかり元気になった。ところが、曽良は体調がすぐれぬまま、寝込んでしまった。こうして、金沢滞在は９泊 10 日と２４日まで続いた。２２日には一笑の追善供養の句会が菩提寺である願念寺で催された。

塚も動けわが泣く声は秋の風　　芭蕉

さらに、２３日は誘われて、宮ノ越［港町金石（かないわ）］で遊興している。曾良はといえば、「病気故不行」とある。ただ、芭蕉はこの金沢で新たな若い弟子を得ることとなる。小松出身の立花北枝という。集まった俳人の一人であったが、金沢では始終芭蕉に付き纏う。その後の小松、山中でも同行し、曽良が芭蕉と別れた後も、しばらく芭蕉に付くこととなる。後に蕉門十哲の一人に加えられるほどの活躍をしている。

本龍寺

令和５年（2023）４月、すっかり定例となった４人旅（我々夫婦と妻の義姉夫婦）の３度目は、「おくのほそ道」の追随としては、金沢、小松、那谷、山中に対応する。とはいえ、その前に４月12 日に飛騨高山の古い町並み、そして、13 日には白川郷での世界遺産合掌造りの集落を見物した。その後、東海北陸自動車道を北上し、高岡市福岡で芭蕉の「おくのほそ道」の行程に入った。福岡で左折して一般道を行くと倶利伽羅峠の傍を抜けて、昼過ぎに道の駅「倶利伽羅・源平の郷」で休憩、「火牛の計」の火牛像を見て、金沢に入った。まず、兼六園を散策し、金沢城公園ではボランティアガイドから石垣積みの巧みさについての説明を受け感銘した。金沢駅前のホテルに宿泊したが、夜は駅前の「鼓門」を見学。（妻はこれが今回の旅の主目的）。いずれの観光地も人で溢れていたが、ほとんどが外国人の賑わいであった。

14 日。これからが本番。朝８時にホテルを出て、まず、芭蕉が遊んだという金石へ。地元の人に誘われてわざわざ出向いた港町。今では近代化された街ではあるが昔の面影はある。この街にある本龍寺へ。立派な本堂に向かって左手前にこの港町の趣を持つ芭蕉の句碑がある。

小鯛さす柳すずしや海士が軒　　芭蕉

次に、一笑の追善供養の句会をしたという願念寺へと金沢の中央へ向かうが、途中、北國銀行の前に「芭蕉の辻」がある。繁華街の交差点であり、駐車も出来ないので、ここで一人で降りた。慌ててスマホも持たず。そして迷子になって、見つけられるまで暫し皆に迷惑を掛けてしまった。この「芭蕉の辻」、芭蕉が金沢で宿泊した場所らしい。ところで、「芭蕉の辻」は仙台にもある。これは、われらが俳聖芭蕉とは関係なく、辻に芭蕉の木が植えられていた為とか名の由来は判然としない。

「芭蕉の辻」から犀川大橋を超えて少し行くと、左手に願念寺がある。門前に立つと住職と思われる一人の老いた人が近づいてきて話しかけられた。この寺には「一笑塚」が有名であり、話題にすると、この寺は代々小杉家が継ぎ、近年ある学者が来て過去帳を調べた折、一笑のことも出てきたと話が始まり、寺を案内され、この寺は戦争でも被害はなく、釣鐘も没収されなかったなどと話題が続く。説明に圧倒され、肝心の一笑塚を見るのも忘れて辞した。前日までのあれだけ賑わいのある観光地を見て、訪れる人もない両寺の静けさは対照的であった。「芭蕉の辻」でのトラブルもあって、時間も押しており、次の予定の小松へと急いだ。

願念寺

なお、この北陸の地は今年の年初に能登半島地震による大きな被害が出て目下復興の最中ではあるが、そんな折、この 3 月 16 日に北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業が予定通り出来たという朗報も入ってきた。北陸の早期復興を願う。　以下次号へ。

（パートナー　小松）

パートナーに関係する新任センター職員の紹介

センター長　八重樫（やえがし）　智之（ともゆき）

環境活動推進課　課長　與澤（よざわ）　知洋（ともひろ）　　主査　池田（いけだ）　昌幹（まさもと）

主事　加美山（かみやま）　碧巴（あおば）

「パートナー情報誌香澄」編集委員及び掲載原稿の募集について

香澄編集委員会では、パートナーの皆さんにパートナー活動やセンター事業に関する情報を発信するため定期的に「パートナー情報誌　香澄」を発行していますが、皆さんも香澄編集に携わってみませんか。興味のある方のご参加をお待ちしております。

また、香澄に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センター内での活動内容や、お住いの地域の話題などなんでも結構です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、つぎのメールアドレスにご投稿願います。皆さんからのご投稿をお待ちしております。

［投稿先メールアドレス］

e-mail: hi.tarumi@pref.ibaraki.lg.jp

（霞ケ浦環境科学センター環境活動推進課　樽見宛）

（香澄編集委員会）

＊＊＊＜編集後記＞＊＊

若葉の候、田植えの季節を迎えました。季節の移ろいが曖昧になりつつあるこのごろでも、花（桜）の開花と水田が色を変えていくこの時期だけは、それを五感で実感できるのではないでしょうか。

日本はかつて、急激な経済成長の歪みで環境劣化に苦しんだ。その原因を排除することで、今は、水も空気も清浄に見える。果たして、それらは本当に健全なのか。汚染の要因となるものらを風上や川上の海を越えた目につかないところへ追いやっただけではないか。気流や海流には、海は隔たりとはならない。

化石由来の資源からの脱却は、人類の大命題であるが、後進国にとっては発展の原動力である。たとえ、我が国がその消費を抑えることができたとしても、微粒子は飛来し、マイクロプラスティックは漂着します。日本は、自ら脱炭素に取り組むだけでなく、世界的な環境保全に貢献していかなければなりません。

一人一人が、高い視点と広い視野で地球環境を考えていきたいと思います。

（パートナー　栗原）